

【解説】これは今までにここに翻訳紹介した最も恐ろしい論文かもしれない。ウィギントンがここに重要論文として引用し、(赤で)コメントしているのは、数名の主流気象学者の共同執筆による純粋な研究論文だが、その内容は、この惑星と人類に向けられたごく近未来——30～40年以内——の死の宣告と警告だと言ってよい(ウィギントンはそんなにかからないと言う)。彼らはウィギントンと違い、気象操作を認めない(「部屋の中の象」を知らないふりをする)立場であり、しかも危機の要因をメタンの放出だけに絞って論じているが、にもかかわらずこの結論は避けられないようだ。

気象操作と近未来の惑星的絶滅

June 11, 2014

GeoengineeringWatch.org



我々の周囲でいま急速に何が起きているかを知っている人は、わずかしかない。大企業の支配下にある主流メディアは、警告や不愉快な真実を無視しようとする、人間の持つて生まれた傾向をうまく煽り立てている。民衆は全体として、彼らにお膳立てされたウソの山を喜んで押し頂いている。スプーンで与えられる惑わしとプロパガンダを、大衆が受け容れ続けることによって、地球惑星の“略奪、略取、強奪”政党と言われる者たちをこれまで支えてきた。物語のこの章は、生命世界が、何世紀にもわたって、その生命を支える仕組みに仕掛けられてきた全面戦争に対して、答えを出すその日までに終わるはずである。この地球上で起こる 6 番目の大絶滅が、**いま**である。これは否定できない統計的事実だ。我々が全体として直面しているシナリオは、これ以前のものとは違っている。今回に限っては、もし我々が現在のような生き方をずっと続けるなら、この惑星上のすべての生命が消滅するであろう。

次に載せるのは、“Arctic News” ウェブサイトに発表された、きわめて重要な研究論文から

抜粋した、いくつかの重要ポイントである。私は、この論文のいくつかの最も率直で恐ろしい暴露部分を抜き出し、これを説明する文章を赤で示した。この論文全体へのソース・リンクは終わりに明示してある。意欲のある人々には、論文全体を読むことをお勧めする。一つ念頭に置いていただきたいのは、この論文を書いた科学者たちは、我々をこのきわめて暗い瞬間に導いてきた集中的破局の中で、一つの最大の要因といえる進行中の地球的気象操作を、認めていないことである。まずそれを言ったうえで、それ以外にも、多くの反気象操作共同体が認めたがらない、この生命世界への人間起源の破壊原因が無数にある。このような形の否定は、気象操作を否定する人々と何ら変わらない。——Dane Wigington



北極圏大気のメタンによる地球温暖化ヴェール (Arctic News 論文)

概要

「水中の有機物によって形成されるメタンは、水が凍ったとき氷の結晶構造の中に閉じ込められ、北極海の約 300 メートルの深さで、また浅い East Arctic Siberian 岩礁上で安定している。北極海の海底にはあまりにも大量のメタンが貯蔵されているので、万一、この海底メタンが近未来中に大気圏に放出されるようなことがあれば、それは、「ペルム紀」に起こったような大絶滅事件を引き起こすのに必要とされた量の 100 倍もの量になる (Light and Solana, 2012-2014, Carana, 2012-2014)。これ以外にも、浅いメタン・ハイドレートの栓によって、もともと北極海底の亀裂に封印されている、莫大な量のマントル・メタンがある (Light 2014, Canara 2013)。」

「もし、北極海の海底メタン・ハイドレート埋蔵量 (約 10,000 億トンの炭素) の数パーセントでも解離されて、そのメタンが大気中に解放されたら、それは全面的氷河流出と大絶滅事件を引き起こすであろう (Light and Solana 2002)。このような北極メタンの解放の割合をもたらすのに必要なエネルギーは、比較的わずかである。メキシコ湾流 (Gulf Stream) からの熱エネルギー入力 of 1000 分の 1 もあれば、メタン・ハイドレートを解離させること

ができる。その上、この北極のメタンを解放させるのに要するエネルギーの割合は、人間の化石燃料使用によって、海、氷、陸地、および大気に加えられている地球温暖化熱エネルギーの、100万分の1以下にすぎない。我々にとって不幸なことに、地球温暖化は、メキシコ湾流を併せて北極に流れ込む海流の温度を上げ、海底メタン・ハイドレートと亀裂の封印の大規模な不安定化を起こさせ、大気へ解放されるメタンの量を増加させている。人間がもたらす地球温暖化の全体は、4個のヒロシマ原爆を毎秒爆発させているのに相当する (Nuccitelli et al. 2012)。人類は自分の死亡証明書にサインしてしまった。我々の最終的な絶滅は、もし我々が直ちに、きわめて激烈な行動を取って二酸化炭素汚染を完全に食い止め、北極海の海底や、海水や大気から大量のメタンを減らし（およそ 673~700ppb まで）、再生可能エネルギーに完全に戻らない限り、次の 30 年から 40 年以内に、“母なる地球”によって我々の最終的な絶滅が執行されるだろう。」

ジオエンジニアリング=気象操作（地球のイオン圏ヒーター、別名 HAARP を含めて）は、根本的に上層の気流を変えてしまった。これが海流を変化させ、いま北極へ流れ込んでいく海水の温暖化をもたらし、これが海底のメタン・ハイドレート層を溶解させている。——D. W.



「北半球全体が今、厚みを増す大気メタンのヴェールに覆われ、これが約 1 日に 1 キロメートルの速度で南下しつつあり、すでにアメリカ全体を包んでいる。」

この惑星はすでに、人々が信ずる通りに導かれているよりも遥かに高温で、UV（紫外線）測定と“公的”気温測定は大幅に下方へ偽装修正されている——人々が信ずる通りに仕向けられている上方へではない。——D. W.

「アメリカとカナダを覆っている巨大な汚染雲は、1940年代以来、湾岸流の流れを3倍も速くした。湾岸流は大量の熱を北極海へと運び、そこでそれは海底のメタン・ハイドレートを不安定化し、膨大な量のメタンを北極の大気圏へ放出させている。」



この研究論文から引用した上の文章には、強い考慮が与えられるべきである。「巨大な汚染雲」は第一に、完全に狂気の気象操作プログラムに由来するものである。毎日のように散布された重金属と微小化学物質は、完全に大気を飽和状態にした。驚くべきことに、「気象科学」共同体はいまだに、この部屋の中の象を認めていない。地球的ジオエンジニアリングはすでに我々の集団的運命を決定したかもしれない。——D. W.

「我々は、北極のメタンによる8℃の気温上昇と、それに伴う地球的な氷河流出と絶滅の可能性に直面する前に、すでに14年間におよぶ、極端な暴風を伴う、連続して悪化する天候を経験してきた。」

IPCC 5 (第5回 気候変動に関する政府間パネル) は、巨大な炭素の源である、解けていく永久凍土層からのCO₂とメタンを無視しようとしている!

“気象科学”共同体全体が、彼らのモデル作りに関してウソの指令に従ってきたが、ほとんどの人々が信じているような方向にではない。事実上すべてのIPCCのモデリングは、我々の置かれた状況が、いかに恐ろしい緊急事態であるかを明らかにすることから程遠いものだ。IPCCは、“フィードバック”のループ(メタン放出とオゾンの枯渇のような)を、彼らのいかなるモデリングにおいても考えていない。この事実は、このモデリングが、すべてははっきりと虚偽で虚構であることを意味する。IPCCは、真理を隠すために存在するのであって、それを明らかにするためではない。現在進行中の気象操作プログラムと、我々の直面するもの全体の大きさを完全に否定することによって、IPCCは、グローバル権力構造が彼らに望むこと——大衆にパニックを起こさせないようにすること——をやってきた。この権力構造は、我々の知るような文明の、来るべき全面的崩壊に備える間、時間を稼いでいるのである。——D.W.

「間違いなく、アメリカの工業地帯の海岸沖に降り注ぐ汚染雲を原因とする地球温暖化は、

ってくる最終的な崩壊と絶滅を防ぐために、何を試みるべきかという問題である。」

上の文章は、この論文の数人の著者の一人からの訴えである。このきわめて強力な声明と思われるものでさえ、我々の直面する緊急性を訴えるには足りないだろう。——D. W.

「数日から数カ月というきわめて短い期間のうちに、大気中のメタンは、二酸化炭素のその 1000 倍から 100 倍の地球温暖化潜在力をもつようになる (図 2 a および 24)。」

ここでも再び、上で言われている要因は、IPCC, NOAA, NWS、その他、未来の気象モデリングの“公的”ソースからの“公的”モデルによって考えられてはいない。——D. W.

「アメリカ合衆国は直ちに、最も極端な種類の国際的緊急事態を宣言し、世界の政府、ガス・オイル企業、銀行、エンジニアおよび科学者の国連会議を招集し、エスカレートする北極メタンの爆発の脅威に対処する、最も迅速で最も効果的な方法を選択すべきである。我々はすでに、大規模な海底大気放出が北極で現実に始まった 2010 年 8 月を、3 年半過ぎている。次の 2 年半が、北極のメタン放出を食い止める試みをするための、残されたすべての時間である。それが過ぎれば、浮かぶ北極がなくなり、世界の氷河が解けることによって、また北極のメタンによる地球温暖化によって生ずる、温熱効果と海水位の上昇に、完全に歯止めがかからなくなり、人類は今世紀の半ば前 (2040~2050) に、全面的な絶滅に直面するであろう。」



上の批判的警告は、現行の地球的気象操作について何も述べていない——それを止める呼びかけは勿論のこと。だがそれにもかかわらず、この警告は全世界のメディアの大見出しであるべきである。不幸なことに、これはいとも容易く絨毯の下に隠されることだろう。主流メディアは完全にコントロールされ、民衆はぐっすり眠っている——少なくとも当分の間は。——D. W.

(引用されている論文 Arctic Atmospheric Methane Global Warming Veil は、下記のサイトで読むことができる——

<http://arctic-news.blogspot.com/2014/06/arctic-atmospheric-methane-global-warming-veil.html>